

—チェルノブイリ原発事故 34 周年記念・学習講演会—

# 「チェルノブイリと福島を考える」

◇日時 2020年4月25日(土) 14:00~16:00

◇会場 札幌エルプラザ(環境プラザ) 2階環境研修室1, 2 (札幌市北区北8西3)

◇講師 **加藤幾芳** 北海道大学名誉教授

— 資料代 300円 —



加藤幾芳先生  
プロフィール

チェルノブイリ原発事故から丸34年。今も原発から30キロ圏内は立入禁止が続いています。事故直後原発を覆った石棺が壊れ、2018年11月EU主要国の協力で新たに巨大な鋼鉄製ドームで覆い、100年間かけて廃炉作業を進めるといいます。

福島は東電の福島第一原発事故から10年目を迎え、昨年6月東電はやっと第2原発の廃炉を表明しましたが、今も4万人を超える県民が避難を強いられ、事故原因は未解明、汚染水の流出は止まらず、事故収束の見通しも立っていません。ところが安倍政権と東電は、被災者への支援を次々打ち切り、完全賠償に背を向ける一方、復興五輪を唱え、事故を終わったことにしようとしています。原発と人類は共生できるのか—ウクライナの首都・キエフや旧ソ連時代の核実験国・カザフスタンに何度も訪れられた原子核物理の専門家・加藤幾芳先生のお話を聞いてともに考えてみませんか？

☆1947年 秋田県生まれ

- ☆1966年 坂田昌一先生にあこがれて名古屋大学物理学科入学。坂田昌一先生の最後の授業を受ける。
- ☆1970年 京都大学大学院で原子核理論研究はじめる。科学者会議で原発問題に取り組む。
- ☆1975年 北海道大学理学部物理学助手、講師、助教授を経て、2000年教授(原子核物理研究室)
- ☆2011年 北大を退職、名誉教授。核データセンター研究員。日本学術会議連携会員(原子力問題)

主催 < 原発問題全道連絡会 / 国民大運動北海道実行委員会 >

003-0805 札幌市白石区菊水5条1丁目4-5 道労連内 電話:011-815-8181, Fax:011-815-4545, e-メール: genpaturen@gmail.com